

第41号



2015.4月



発行 城里町社会福祉協議会 ☎029 288 7013 FAX 029 288 7021 ホームページ <http://www.shirosato-syakyo.com>
編集 広報ボランティアグループ



年に一度の晴舞台 城里町 高ク連芸能発表会



第9回城里町高ク連芸能発表会が、城里町高年者クラブ連合会の主催により、2月21日(土)七会公民館にて開催されました。

開会にあたり、阿久津高ク連会長の主催者挨拶、上遠野町長と議会議長代理からの来賓祝辞がありました。各クラブの代表34組が、日頃鍛えた自慢の歌・踊り・演奏を舞台の上で発表しました。緊張しながらも堂々としたその姿に、拍手や声援が送られました。

出演者の方に伺ったところ、「この日の為に一週間程特訓しました」と歌が終わりにホツとした表情で話されていました。

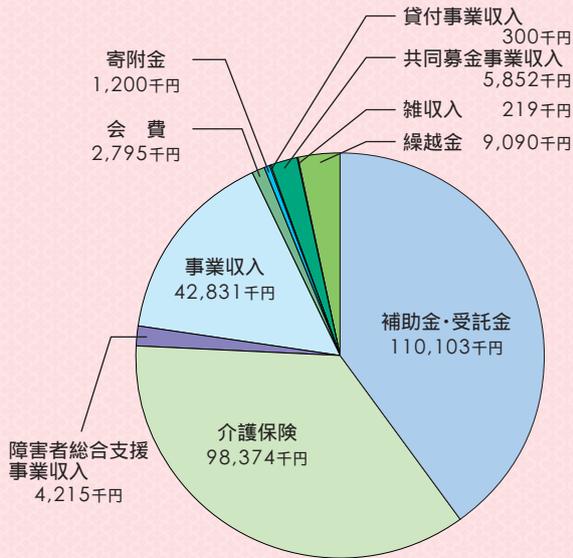
出演が終わる席に戻った仲間に「良かったよ」「上手だね」と優しい声を掛けている光景が会場のおちこちで見受けられました。

クラブに入った事で、新しい仲間が出来て活動の場も広がり、若々しく行動する元気なその姿が、凛として頼もしく見えました。

社会福祉協議会事業計画・収支予算

収入の部 (単位：千円)

収入 274,979千円

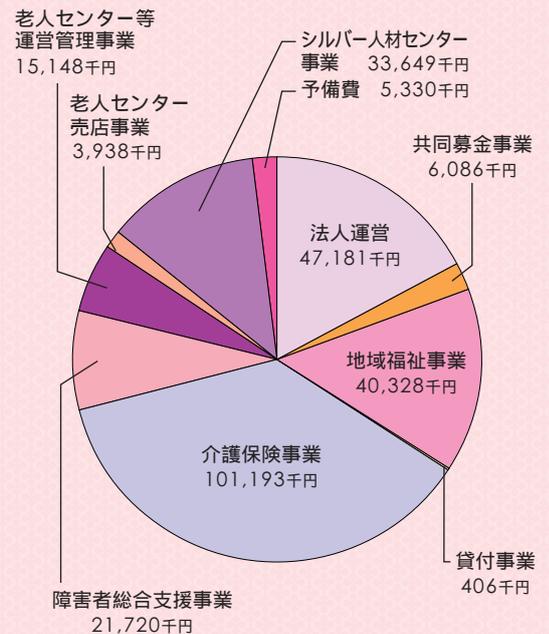


区 分	予算額	説 明
補助金・受託金収入	110,103	町補助金・受託金
介護保険事業収入	98,374	介護報酬収入・利用者負担金収入等
障害者総合支援事業収入	4,215	障害者総合支援費収入等
事業収入	42,831	利用者負担金収入等
会費収入	2,795	世帯会費・特別委員会費収入
寄付金収入	1,200	寄付金収入
貸付事業収入	300	貸付償還金収入
共同募金事業収入	5,852	共同募金配分金収入
雑収入	219	雑入・利息等収入
繰越	9,090	繰越金

支出の部 (単位：千円)

支出 274,979千円

区 分	予算額	説 明
法人運営事業	47,181	法人本部運営
共同募金事業	6,086	広報紙作成・福祉教育・災害援護事業等
地域福祉事業	40,328	地域ケア・ボランティア・配食サービス・デマンド交通事業等
貸付事業	406	生活福祉資金・小口貸付金事業
介護保険事業	101,193	居宅介護支援・訪問介護・訪問入浴・通所介護事業
障害者総合支援事業	21,720	地域活動支援センター・日中一時支援・障害者総合自立支援事業
老人センター等運営管理事業	15,148	老人福祉センター・保健福祉センター管理事業
老人センター売店事業	3,938	売店事業
シルバー人材センター事業	33,649	シルバー人材センター事業
予備費	5,330	予備費



平成27年度 社会福祉法人城里町

基本方針

城里町社会福祉協議会は、地域に根ざしたさまざまな住民参加型の地域福祉活動を押し進めてまいります。さまざまな社会資源とのネットワークを活用し、地域の方々との協働を通じ、「ともに生き、積極的に支えあい、活力ある福祉のまちづくり」の実現をめざし、地域福祉向上と推進に努めることを基本方針といたします。

重点目標

1. 安心して暮らせる地域づくり
地域で幸せに暮らせるために、災害や犯罪などから町民の生活を守るための活動を進めるとともに、地域の防災づくりや支援の必要な人の情報を把握するしくみづくりをめざします。
2. 人がつながる地域づくり
地域のつながりを深めていくとともに、地域で行われているさまざまな活動の活性化を図り、地域のみんなでふれあい、支え合える地域づくりをめざします。
3. 魅力あふれる地域づくり
地域の資源や歴史、豊富な人材をいかした住民参加による地域活動、福祉活動を通して魅力ある地域づくりを進め、広げていく体制作りを進めます。

平成26年度赤い羽根共同募金運動実績報告

赤い羽根募金

募金種別	募金寄附者	金額
戸別募金	423自治体	3,110,350円
法人募金	127団体・企業	870,000円
職域募金	18課・局	31,230円
学校募金	14校	274,016円
その他	個人・団体等	38,900円
合計		4,324,496円

**自治会長はじめ、町民の皆様、
企業・学校・団体関係者**

ご協力ありがとうございました

お預りいたしました募金額は県共同募金会に送金し、助成額決定後、平成27年度当町の地域福祉向上のため活用されます。

歳末助け合い募金は昨年12月に一人暮らし世帯など174世帯に給付いたしました。

歳末募金

募金種別	募金寄附者	金額
戸別募金	422自治体	2,074,000円
その他	個人・団体等	118,486円
合計		2,192,486円

きめると生きる

季節の彩りと風情を届けて

寺門 千枝子さん(石塚)



寺門千枝子さん

社会福祉協議会のフロア
ーやカウンターに、季節の
彩りや風情を添えてくれて
いる苔玉と吊し雛があるこ
とをご存知ですか。

これは石塚在住の寺門千
枝子さんが、四季の移り変
わりや行事に合わせ、丹精
込めて一つ一つ作ってくれ
ている作品です。

「布と土いじりが好きなの
よ」と言う寺門さんは、イン
ドア派と思いきや、登山が
趣味で、フラダンス・よさ
こい、配食サービスや輪を
広げる会などのボランティア
活動にも活発に参加して

いるアウトドア派です

苔玉作りは10年前、青山
から北米を散歩中に見つけ
た寒蕨(冬花蕨)で苔玉を作
ったのがきっかけで、現在
では桂公民館などの一日講

座で、作り方を教える程の
腕前です。山野草を一本植
え込んだ苔玉、数種類を寄
せ植えにした苔玉………受
講生が作りたいものを解り
易く、きちんと形になるよ
うに、材料から準備をし、
丁寧に教えてくれます。講
座は大人気で、定員15名の
ところに倍の人数が集まり、



苔玉



吊し雛

午前と午後の2回に分けて
教えた事もあったそうです

吊し雛作りは5年前から
布遊びを通して始めたそう
です。吊し雛は縮緬などの
着物を解いてできた布を一
つ一つ縫いで、縁起物や
布飾りなどの細工物に作り
紐に繋がれたものです。同じ
細工物でも布を変えたり大
きさを変えたりすると、異
なった表情を見せます。「布
選びが大変なの」と言いな
がらも骨董市などをまわり
布遊びをすることが楽しい
そうです。

現在5月の端午の節句に
合わせて吊し雛を製作中で
これもまた社協のフロアー
に飾られます。どんな細工
物が出迎えてくれるのか、
乞うご期待!!お楽しみに。

つくしの四季 (35)

4月半ばを過ぎ、ようやく
外出しやすくなってきました。

今回は、僕の日常生活で
感じたことや楽しかったこ
とを書きたいと思います。

まず、3月15日(日)にい
きものがかりのコンサ
ートに行ってきた。今ま
で行った所より近くで見れ
てとても良かったです。車
イスの方も多く、色々な年
代の方達が来ていました。
グッズ売場は、車イスの方
は優先で買うことが出来ま
した。

僕は、人工呼吸器を24時
間使っているので、外出す
る時は、バッテリーを充電
して移動しています。バッ
テリーも限界があり、充電
が切れると命にかかわりま
す。そうならないようにコ
ンセントで充電をしなければ
なりません。だから外出
先では、必ず一番先にコン
セントを捜します。

そして最近、よく映画
を見に行きます。上映時間

は約2時間程度ですが、移
動時間を含め、5時間と予
備の2時間のバッテリーを
充電します。映画館では、
スクリーンに影響があるた
め、充電も難しく、「24時間
人工呼吸器を使用しているの
で命にかかわる」ことを説
明し、コンセントを借りて
います。また、映画館の中
の暗闇での充電は、他のお
客様がまずく危険があり、
外で充電しています。

まだまだ人工呼吸につい
て知らない人が多く、呼吸
器をつけていると、家にこ
もりきりと思われるがちです。
障がい者も健常者と同じよ
うに、コンサート、映画、
旅行と行きたい気持ちは同
じです。

今回の経験で感じたこと
は、何回も足を運んで自分
の存在を知ってもらい、障
がい者の理解につながれば
と思いました。(加藤直)



コンサート会場にて

「在宅福祉サービスマニヤ研究会」
障害者とともに強く生きる

在宅福祉サービスマニヤ研究会が平成27年3月15日(日)、城里町常北保健福祉センターで行われ、関根ひろみさんが講師として招かれました。

関根さんは城里町北方に住み、昭和55年4月高校2年生の時、乗っていた車が正面衝突、頭骨が陥没する大怪我にあいました。この時に目の神経と嗅覚の神経が切れ、全盲となってしまうのです。目を開けても目を閉じても何も見えない辛さ、美容師になりたかった将来の夢も消え、ただただ不安や恐怖、そして生きていることの辛さを味わう日々でした。

昭和56年県立盲学校へ入学。初めての点字の勉強、



関根ひろみさん

慣れない寮生活に何度も学校をやめようと思いましたが、そんな中、保健医療科に移り、あん摩マッサージの勉強に励み難関の国家試験に合格し、昭和61年には自宅で治療院を開院することができました。

目が不自由なため、社会に出て働くことには不安がありました。先輩の勧めもあり、平成21年から訪問医療マッサージ師として治療院で働くことになりました。

関根さんは「私は目が見えないだけ。でも世の中には病気で寝たきりの方や硬直した方がいる。その方々の力になりたい」と語っています。そしてマッサージと機能訓練を行い、多くの利用者からたくさん信頼を得ています。いま関根さんは「見えない私にでも、声をかけてください。そして、障がい者に対し暖かく見守って下さい」と訴えています。

城里町も3人に1人が高齢者です。地域に住む人が安心して生活出来るよう、支援する必要性を感じさせた研修会でした。

光園ゆかりの
初音茶復活に賭ける

古内茶の歴史は室町初期まで遡ります。当時の高僧が元から茶種を持ち帰り、下古内の清音寺境内で栽培したのが始まりだと言われています。

その清音寺に一本の茶樹があります。徳川光圀が同寺を訪問した折、その味に感激し、初音という号を自ら授けた茶の原木です。

県・町・農協が協力

その原木から挿し木に使う枝を採り、江戸時代に親しまれた初音茶を復活させようという試みが昨年7月から始まりました。古内茶生産組合前組合長加藤さんを主体に、県、町、農協が技術指導や広報など其々の立場でできることを分担し進めています。

「挿し枝は980本。組合員の挿し床2箇所と県施設の挿し床に挿しました。作業は暑い中関係者全員で行いました。根を張らせ定植でき



初音茶の挿し床

る苗を育てるには今後も気が必要です」と前加藤組合長。この挿し枝、順調に行けば2年後に苗になり、苗を定植して4、5年後には茶葉を収穫できるそうです。

特産として成長に期待

古内ではこれまで、煎茶として香気が強く、甘味に富むやぶきた茶を生産してきました。今回の初音茶、5、6年後に、歴史を背負い口マンを漂わせて登場します。それも生産者、県、町、農協の新しい協力のあり方の賜物として……。従来の生産茶と共に町の特産品として成長を期待したいものです。

注：初音茶について、茨城新聞平成27年2月15日に掲載されています。

しんがく
石塚城跡

城里町役場から北へ1km程行った所に、昔石塚城があったのをご存知でしょうか。石塚城は南北朝期に佐竹宗良が所領の石塚に築城し当地方を統治。1602年に廃城となりました。城跡は、小字御城、御城東、根小屋に及ぶ広大なものであり、土塁や堀跡などその一部が残っています。林と落葉で覆われたこの地に、昔は城があり、人が行き来してたのかと思うと、城主や家臣達の話し声が聞こえてくるようです。



石塚城跡の説明板と入口

障害福祉サービスを利用するには

平成25年4月1日から、障害者自立支援法を改め、障害者総合支援法が施行されました。

（ケアプラン）の作成が求められます。

障害福祉サービス等の利用手続き

① 相談・申請

この法律で、今までサービスの利用申請をすることができた身体障害者・知的障害・精神障害の手帳をお持ちの方に、新たに難病等の方が追加されました。パーキンソン病や関節リウマチなど151疾患（平成27年1月現在）の難病等に該当する方は障害者手帳を持っていないくても、対象疾患であることが分かる証明書を持参の上、市町村の窓口で受給申請することができます。その後、障害支援区分の認定や支給認定の手続きを経て、必要と認められたサービスを利用できることとなりました。

② 障害支援区分認定調査

（介護給付の場合）

介護給付費の対象サービスを利用する場合は、必ず障害支援区分認定を受けなくてはなりません。ただし、訓練等給付費の対象サービスを利用する場合は、認定を受けなくても利用できます。

③ サービス等利用計画（案）の提出

サービスの利用意向などを踏まえてサービス等利用計画を作成し、申請します。相談支援事業所と契約をし、相談支援専門員が利用意向などを踏まえて作成し、提出することができません。また、申請者自身による作成も可能です。

④ 支給決定

サービスの利用意向の聞き取りを行い、障害支援区分や介護する人の状況などをもとに、サービスの支給量が決まります。決定内容が支給決定通知書により通知され、受給者証が交付されます。

⑤ サービス等利用計画の作成

支給決定が行われた後に、指定特定支援事業者は、サービス等利用計画を作成します。申請者自

身による作成も可能です。指定特定支援事業者については、市町村にお問い合わせください。

⑥ 事業者と契約・サービスの利用開始

城里町の窓口

城里町役場 健康福祉課
029 353 7265



手話を学ぶ 色

暖かさが増すにつれ、町には新緑の緑・赤や黄などのたくさん春の花の色があふれてきましたね。今回は「色」をご紹介します。

「緑」
これは緑の樹木が生えている様子を表します。



両手の手の平を手前に向け、交互に上下に動かします。

「赤」
これは唇の色、すなわち赤を表しています。



右手の人差し指を伸ばし唇にあて、右に引きます。

障がい者意見交換会

つくしの会 会長 鈴木 香代子

上遠野町長との障がい者意見交換会という初めての機会をいただきありがとうございます。ございました。

つくしの会として、ケアホーム等の施設を造っていただきたくと要望しました。私たちの子どもは、身体的的に障がいがあり、学校(特別支援学校等)を卒業し、地域活動支援センター(作業所つくし)に入所しました。指導員や地域のボランティアの皆さん、そして大好きな仲間たちと毎日のびのびと作業に励んでいます。親としては感謝の気持ちでいっぱいです。

今後の希望としては、親なき後の子どもたちの将来の事です。子どもたちが安心して自分らしく暮らせる施設が欲しいと思います。地域の方たちの支援を受け子どもたちも生きがいを持ち、住み慣れた城里町で生活できるような場所です。



意見交換会の様子

できれば孤立する事なく、家庭的な温かい雰囲気なのか、障がいのあるなしにかかわらず、お互いが助け合えるような施設ができればと思います。つくしの会の年間行事として施設見学を行っていただきます。昨年度は、水戸の「まなほのまちの木」と、かきの木ホームで管理者の方に活動内容やサービス内容を聞かせていただきました。これからも見聞を広めて、子どもたちのため、施設実現に向けて努力していきます。今後もご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

城里町社会福祉協議会事務所のご案内

新庁舎建設により、健康福祉課・保険課は、城里町常北保健福祉センターから新庁舎に移りました。健康福祉課、健康増進グループと城里町社会福祉協議会は、城里町常北保健福祉センターで業務を行います。

城里町常北保健福祉センター



「黄色」
これは鶏のヒナのとさかの黄色を表しています。



「ピンク」
右手の親指を額に当て、人差し指を左右に動かします。



「青」
指を閉じて軽く曲げた両手を2回合わせます。



これはひげを剃った後の青々とした肌を表します。

右手の4本の指を右のほほにあて、後ろに引きます。

(すぐに使える手話辞典6000より引用)

わが町のさわやか元気さん ③4

阿久津博文さん 87歳
子 塩



ベージュのベストとブレザー姿の博文さん、昭和3年の生まれですが、若々しく元気です。

長男ご夫婦とお孫さんご夫婦、3人の曾孫さんとの3世代、8人家族です。地元旧七会村の小学校に教師として4年間在職しました。退職後は、村会議員を2期6年間、また教育委員を務められました。

清水ふさ子さん 89歳
小 勝

ふさ子さんは平成5年にご主人を亡くされて、現在は二世帯住宅で息子さんの家族3人と、4人で暮らしています。部屋の入ると、クロス刺繍のお花や鳥等の額がたくさん飾ってあり、素晴らしいものです。全部ご自分の作品とのことです。手先の器用なふさ子さんは、クロス刺繍の作品を見て、

自分で考えながら始めたそうです。ビーズの色を組み合わせて作った、龍の絵の暖簾もありました。日常生活は、ご飯は自分で炊き、おかずはお嫁さんが届けてくれるそうです。掃除や洗濯は自分でします。最近では週2回のデイサービスに行っています。皆さんに会い、お話できるのも楽しみです。また、歌手の北山たけしのファンでお孫さんとコンサートにも行く

奥様は10年前に亡くなられました。生前は2人で世界各国を旅されたそうです。イタリア・フランス、ドイツと今は懐かしい思い出になりましたと話されました。今は一人旅を楽しんでいます。1週間の予定でスケジュールを組み、宿も選び列車での旅です。最近では伊豆方面を旅したそうです。阿久津家の夕餉の食卓は賑やかです。その団欒のひとときが最高の幸せだそうです。

そうです。心ときめく対象があることも若さを保つ秘訣でしょう。

ふさ子さん、いつまでも若々しくお元気でお幸せに。



平成27年度 新規採用職員紹介

平成27年度に新規採用となった職員をご紹介します。よろしくお願いたします。

法人運営部
障がい者相談支援専門員
清宮 一生



介護保険事業所
居宅介護支援専門員
馬籠 貴彦



目次

高齢者クラブ芸能発表会	1
予算・計画・赤い羽根	2・3
きらっと生きる	4
つくしの四季	5
在宅福祉サービスマニュアル研修会	5
初音茶	6
しるさと	6
障害者福祉サービスマニュアル研修会	6
手話を学ぶ	7
障がい者意見交換会	7
城里町社会福祉協議会事務局のご案内	7
わが町のさわやか元気さん	8
新規職員紹介	8
目次・編集後記	8

編集後記

時折、襟を立てて歩きたくなるような日もあるけれど、陽の光と強さは日一日と大きく感じられるようになってきた。今まで着ていた服を一枚減らし、そして明るい色へと変わりつつある。同時に我々の気持ちも内から外へと出ようとしている。木々の新芽の何と色鮮やかなことか。目を閉じれば遠くから聞こえてくる子供達の明るい声。春爛漫！

(わ)